

すいせん

巻頭言	1
福井県作業療法士会 事務局の紹介	2
おもしろフェスタのご報告	3
第12回県学会のご報告	4
学術・職能部からのお知らせ	5
リレー随筆	6
作業療法士会 功労賞	7
新人紹介	8

OT にとっての“情報”の捉え方

一般社団法人福井県作業療法士会 広報局局长・広報部理事
特別養護老人ホームひまわり荘

前田 真弘



福井県作業療法士会会員の皆様、いつも県士会活動へのご理解・ご協力有難うございます。今回、機関誌すいせんの巻頭言として“情報”に関しての執筆依頼を受けましたので、長年在籍してきた広報部での経験や普段の業務で感じていることを踏まえて、私なりの“情報”に対する捉え方をお伝えしたいと思います。

<情報とは>

そもそも“情報”とは何でしょうか？広辞苑によると“情報”とは、「ある事柄についての知らせ、判断を下したり、行動を起こしたりするために必要な、種々の媒体を介しての知識」とあります。つまり、“情報”は何も無いところから発生するものではなく、誰かが誰かに対して物事を伝えるため、或いは伝えたいために生まれるものだと言えます。

作業療法に当てはめて考えてみると、「患者」「利用者」等の対象の方のリハビリテーションを進めていくために、我々は普段から「情報収集」を行っています。対象者の基本情報を収集し、リハビリテーションの効果を知るために、経過の変化も情報として収集しています。言い換えると、対象の方と情報をやりとりして適したリハビリテーション内容を検討・選択したり、経過を追ってフィードバックするといった形で情報を活用していると言えます。この間にあるものを対象者から見た場合は「現状よりも良くなりたい」という思いであり、我々から見た場合は「現状よりも良くなって欲しい」という思いだと考えます。つまり、情報が行き交うところには、「思い」も同じく行き交っていると私は考えます。

<情報収集とは思いを汲み取ること>

では次に、研修会に当てはめてみます。ある研修会の主催側の思いをあなたはどうか受け取りますか？思いというと、情報を受け取る側は、そもそもそこまで考えてないかも知れません。しかし、情報が動くところには、前述したように思いも確かに存在していると思うのです。「この技術を広めたい」「この理論を知ってほしい」「認定作業療法士を増やしていきたい」など、それは主催側にしか分からないこともかも知れませんが、「汲み取る」ことは出来ると思います。何故なら、普段から対象の方の思いを汲み取っているのが、我々「作業療法士」だと思うからです。

<自身に必要な情報を見つけて活用する>

私が会員への情報発信や地域への作業療法の広報活動を長年行ってきて感じることは、情報の受け手として「自身に必要な情報を見つけて活用する」ことの重要性和難しさです。どこを調べるか、いろんな情報からどうやって取捨選択するか、その情報をどのように活用するかは人それぞれです。このどこかの段階でつまづいて先に進めない、といったことが往々にして生じます。

<最後に>

県士会活動で行き交う情報の中から、「自身に必要な情報を見つけて活用する」主役は会員ひとりひとりです。目の前の対象の方との作業療法に加え、県や国に対しても「あなた」の思いをのせた情報のやりとりが必要とされており、県士会はその一助となれるかも知れません。今後とも県士会へのご理解・ご協力をお願い致します。

福井県作業療法士会 事務局の紹介

～会員全員が楽しく「ワクワク」、ちょっぴり「ドキドキ」した活動ができる能動的な県士会に向けて～

事務局長より

福井医療大学 下川 幸蔵

先ず、皆さまからお預かりしている大切な会費を、責任をもって運用することを常に意識し、会員の皆さまの生涯学習や自己研鑽が滞ることのないよう、有益な情報を確実にお届けできる体制づくりに努めてまいります。次に、形式や慣例にとらわれすぎることなく、ICTや各種システムを積極的に活用することで、時間やコストの無駄を省き、効率的で持続可能な県士会活動を目指します。さらに、研修会の開催にとどまらず、県や市町に向けた県士会の取り組みや草の根的な活動についても、分かりやすく「見える化」し、会員の皆様へ伝えていけるよう取り組んでまいります。

加えて、作業療法士が診療報酬を得て専門職として活動できている背景には、会費によって支えられた職能団体の長年の努力があります。その恩恵を受けながら、職能団体に参画していないという状況は、制度の持続性という観点からも課題であると考えています。県士会は、職域と制度を未来につなぐためにも、会員としての参加を呼びかけていきます。

今後は、作業療法士の職域の拡大と社会的地位の向上に向けて、会員の皆さまと知恵を出し合いながら、一歩ずつ着実に取り組んでいきたいと考えております。

庶務部より

福井医療大学 佐々木 孝次

物品などの保管を担当し、県内外の士会・協会・他団体からの情報をとりまとめ、いち早く情報共有できるよう理事や事務員と連携して収集・発信に取り組んでいます。現在、ペーパーレス化を推し進めており、情報が素早く会員個人にお届けできるよう準備しています。会員のみならず関係各所、地域の多くの方が士会活動に興味や関心を持ってもらえるよう努めています。裏方ではありますが、庶務関係に興味のある方はぜひ事務局にご連絡ください。

財務部より

カルミア春江 山村 ひとみ

事務局財務部の仕事で一番重要なものとして、皆様から集めさせていただいた会費の適正な入金管理、各部署への予算配分・管理があげられます。

現在、適正な会費の支出に重きをおいていますが、今後は下川事務局長ともご相談しながら、業務のスリム化の1つとして、郵送物を廃止し、メールでの情報伝達に取り組んでいきたいと考えております。また、協会が推し進めている「協会員＝士会員」から会費徴収の変更も検討されています。今後とも皆様のご協力をお願いいたしますと存じます。

福利部より

福井総合病院 松浦 雅大

福利部では、初任者研修会を開催しています。初任者研修会では、新人 OT さんや県士会に初めて加入される方に向けて、福井県作業療法士会の構成、各事務局の役割、それぞれのやりがいなどを紹介する場を設けています。

また、この研修会の醍醐味は何と言っても飲み会です。研修後に、意見交換会を開き、病院や地域、様々な場所で活躍する作業療法士の先輩から、貴重な助言を頂いたり、初任者の方同士でも意見交換をすることができ有意義な時間です。もちろん福井県作業療法士会はスマートドリンクを推奨していますので、お酒を飲めない方も大歓迎です！たくさんの方のご参加をお待ちしております。

P.S. 一緒に福利部の活動を盛り上げてくださる方も絶賛募集中です！！

渉外部より

トゥモローズリハビリテーショングループ 津田 和宏

渉外部では現在、福井県地域リハビリテーション実務者研修会の開催や、オーラルフレイル予防体操の普及啓発を中心に活動しています。

本来、渉外活動は外部の関係機関との連絡や協力を通して、組織の発展を支える大切な役割を担っています。しかし、現状では十分にその機能を発揮できていない部分もあり、今後の課題として感じています。

作業療法士の活躍の場が広がる中で、他団体が行う事業への参加、関係機関とのつながりづくり、地域との協働といった渉外活動の重要性はますます高まっています。これからは、行政機関や他職能団体との連携をより深め、県士会員の皆さまや県民の皆さまに貢献できる渉外部を目指して取り組んでまいります。今後とも、温かいご支援をいただけますと幸いです。

「開館 30 周年おもしろフェスタ in サンドーム福井 2025」 出展のご報告

おもしろフェスタのご報告

昨年度の第 11 回福井県作業療法学会はサンドーム福井を会場として開催しました。このご縁があって、サンドーム福井の担当の方から、子どもを対象としたイベント「おもしろフェスタ」（2025 年 8 月 2 日・3 日開催）での出展のお声掛けをいただきました。先方からは多様なお子さんに参加していただけるような企画を福井県作業療法士会にぜひお願いできないかとのことでした。この度、特別支援教育委員会のご協力を得て、広報部、福祉用具対策委員会合同で実施した内容を報告させていただきます。

過去の参加者のご意見で、子どもだけでなく同様の大人も一緒に体験を希望する声があったと事前に伺いました。そのため親子で取り組める内容として、身近な材料で簡単に作製でき、持ち帰って家庭でも活かせる自助具製作を企画しました。洗濯ばさみ、輪ゴムを使って割り箸をトング状のお箸に変身させ、各種教材をつまんで移動したり並べ替えたり、麺類に見立てた

毛糸をすくい上げたり、容器内の小物の中から選り分けて宝物を取り出したりといった遊びを通して自助具を体験してもらいました。視覚支援として準備した手順書（写真付き）を見ながらの自作の変身お箸は、両日で 270 膳を超えました。

「まだ普通のお箸が使えない」「鉛筆を上手く持てない」といった親御さんからのご相談もあり、会場で即席手作りしたり持ち寄った支援グッズを用いて寄り添いました。お子さんが何度も挑戦する中で『やったぁ！』と声が上がると、親子に交じって私達もハイタッチで喜び合いました。

今回、「作業療法士」がお子さんの不器用さなどの気がかりや発達支援について相談できる職種であることを、特に子育て中の一般の方々に知っていただく良い機会を頂戴しました。協会の次年度重点活動項目にもある、5 歳児健診や学校教育への OT 参画、普及の一助となれば幸いに思います。



福井県作業療法士会
制度対策局地域活動推進部
丹南ブロック担当理事

田中 江津子

第12回福井県作業療法学会のご報告

第12回福井県作業療法学会を終えて

第12回福井県作業療法学会 学会長
社会医療法人財団 中村病院

山田 祐輝



2025年12月7日に開催しました第12回福井県作業療法学会につきまして、当日は多くの皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。皆様のご支援ご協力により、盛会のうちに終えることができましたことを重ねて御礼申し上げます。

「作業療法を学びほぐす」をテーマとした本学会ですが、特別講演では、松尾睦先生にアンラーニングについて講演をいただきました。アンラーニングとは、これまで学んできた知識や技術を捨て、新しい知識や技術を取り入れるプロセスを指しますが、当日はその概念や方法についての講義のほか、日々の仕事を振り返るグループワークがあり、参加された方々におかれましては、アンラーニングの理解とともに、日々の仕事を振り返ることで、個人レベルや組織レベルにおける自己改革の機会になったのではないかと思います。また、特別セミナーでは、大下琢也先生に作業科学の視点による作業に焦点を当てた実践について講演をいただきましたが、作業の本質的な理解や思考過程など作業を探求する大変興味深い内容でした。

また、吉原絵理先生に子育て世代の働き方について講演をいただきましたが、お子様と一緒に参加される方の姿も多くみられ、ワークアンドライフバランスへの関心の高さがうかがえました。特別シンポジウムでは、現在協会と士会が体制整備を進めている地域支援

について、釣部雄史先生、吉岡恵美先生、水上保孝先生にシンポジストとしてご登壇いただきました。当日は地域支援の人材育成の入門編として、各先生の先駆的な活動のご紹介のもと、シンポジストと座長を中心にディスカッションが行われました。今回幅広いキャリアの方にご参加いただき、会場一体で地域支援における役割や考え方などを共有することができたことで、団体としての目指す方向性について士気が高まったのではないかと振り返ります。そのほか、演題発表では、総勢18演題の実践報告や研究報告など新たな知見を深める場に多くの方にご参加いただきました。また、子育て世代の応援（お子様同伴）、交流の促進（名刺の配布）、企画（委員会展示、意見交換会、働き方・本紹介）など実行委員を中心に計画し、当日は多くの方にご好評をいただきました。本学会の開催にあたり、講師の先生や発表者および関係者の皆様に改めて感謝を申し上げます。

末筆となりますが、2026年10月10、11日に福井県にて第25回東海北陸作業療法学会が開催されます。東海北陸作業療法学会は東海北陸地方の7県で毎年持ち回りで開催される学会です。此処福井の地で作業療法の一層の発展の機会となりますよう、皆様の変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

学会参加・発表を経験して

医療法人健康会 嶋田病院 斎藤 あさひ



今回、初めて学会発表を行いました。介入をどうまとめるかに一番悩みましたが、悩みながら文献を読み込む中で、用語の定義や周辺知識への理解が深まりました。多くの先輩方から助言もいただき、時間をかけて振り返ることで、今後活かすべき課題に気づき有意義な経験となりました。

また、前回の学会では、気になった発表者の方に声をかけ、つながりが生まれました。私にとって嬉しい出来事となり、自分の取り組みを発信することや、勇

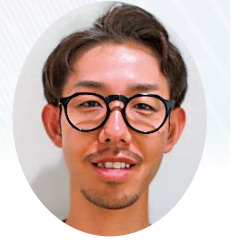
気を出して行動することの大切さを実感しました。その経験が今回の発表につながったと感じています。

今回の学会では、他施設で働く同期とも交流ができました。異なる考え方に触れ、同じようなことで悩むこともあると知れたことで、気持ちが少しほぐれました。

ここでの気づきを大切に、次へつなげていきたいと思っています。

職能部の取り組みのご紹介

福井大学医学部附属病院 山岸 永典



今年度より、学術局長および職能部理事を兼任しております。福井大学医学部附属病院の山岸永典です。今回は、職能部の取り組みと、これまで実施してきた研修会についてご紹介します。

「職能」とは、職務を遂行する能力を指す言葉であると同時に、社会や組織の中でその職業が果たす役割を意味する言葉としても使われています。私たち職能部は、作業療法士として対象者により良い作業療法を提供するため、技術や知識の向上を支援する役割を担っていると考えています。

こうした考えのもと、私は2021年頃より職能部の部員として、福井県内の作業療法士の技術向上を目的に、年2回の研修会の企画・運営に携わってきました。表1には、2021年以降に開催した研修会の内容と参加者数を示しています。研修テーマは、難病や高次脳機能障害といった疾患に対するリハビリテーション技術から、研究に関する学術的な内容まで、多岐にわたります。

研修会に参加された方からは、「参加してよかった」「理解が深まった」といった前向きな意見をいただい

ています。一方で、参加者数はおおむね20名程度にとどまっており、より多くの方に参加していただくための工夫が必要であると感じています。内容の選定だけでなく、開催方法そのものについても検討する時期に来ているのかもしれませんが。

図1は、参加者の協会番号別の延べ人数を示したものです。子育て世代と考えられる30000～50000番台の会員や、80000～90000番台の比較的若い世代の参加者が、今後さらに増えるよう、来年度は開催方式の見直しを進めていきたいと考えています。

コロナ禍以降、研修会はオンラインやオンデマンド形式が定着し、時間や場所に縛られず参加できる点で、参加のハードルは下がったと感じています。一方で、対面形式ならではの魅力もあります。講師の先生との直接的なやり取りや、参加者同士の交流を通じて横のつながりが生まれることは、現場で働く私たちにとって大きな財産です。

今後も、より多くの会員の皆さんにとって参加しやすく、学びの多い研修会となるよう、内容と開催方法の両面から工夫を重ねていきたいと考えています。

表1 2021年から2025年までの研修会テーマと参加者数

年	テーマ	参加者数 (OT 協会員のみ)
2021年	作業療法における難病支援	17名
	生活に繋げる神経心理学的解釈	18名
	高次脳と自動車運転	18名
2022年	ハンドセラピー入門	19名
	脳卒中上肢麻痺の作業療法～基礎と臨床実践の up to date	27名
2024年	福井県作業療法士会人材育成ラダー導入編～おとなりの取り組みを見てみよう～	12名
	学術研鑽活動の活性化に向けた研究支援	22名
2025年	脳損傷者の運動再開支援を“つなぐ”：OTができる評価・相談対応の実際と県内支援のこれから	25名
	新生涯学習制度開始！～登録作業療法士になるために知っておきたい3つのこと～ シンポジウム：みんなで回復期リハ病棟の話をしよう	4名

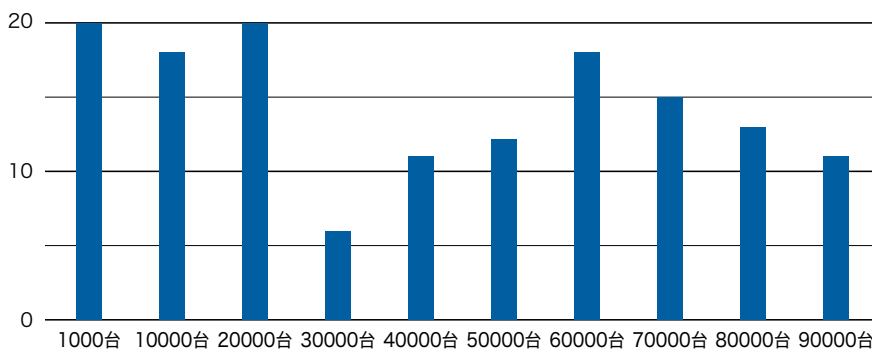


図1 2021年から2025年までの研修会参加者の協会番号の延べ人数



研修会および部員募集のフォーム

特別
企画

福井県作業療法士会の足跡を辿る

—役員経験者から会員に向けたメッセージ—

前回の“リレー随筆”をご執筆頂いた大嶋康介さんからバトンを受け、今回は前教育部理事の山田英二さんに執筆をお願いしました。山田さんは、協会・県士会活動の生涯教育に長年に渡って尽力され、現在の礎を築いてこられました。会員の皆様には、山田さんのこれまでのご経験から、協会・県士会そして作業療法に対する熱い思いに触れていただくと幸いです。

(編集部)

第10回

生涯教育と共に歩んだ
理事としての学びと感謝

福井赤十字病院 山田 英二

このたび、福井県作業療法士会の理事経験者として原稿執筆の機会をいただき、これまでの活動を改めて振り返ることができました。私は複数期にわたり教育部理事を務め、日本作業療法士協会の「生涯教育推進委員」として、県内会員の生涯教育制度運営に携わりました。主に、現職者共通研修・選択研修の企画運営、生涯教育ポイントの管理、制度に関する問い合わせ対応などを担当し、会員の基礎研修修了に向けた支援を続けてきました。

生涯教育制度は5年ごとに改正され、その内容は年々複雑化していきました。制度を理解し、会員に正確に伝えることは容易ではなく、周知方法の検討には常に苦労が伴いました。また福井県は大都市に比べ研修開催数が限られるため、受講機会の確保が難しいという地域特有の課題もありました。そのなかで、可能な限り県内で学びが完結できるよう研修開催の調整を行うなど、環境整備にも力を注ぎました。

新型コロナウイルス感染症を契機として研修は急速にオンライン化し、県外研修にも容易に参加できるようになったことで、受講のハードルは大きく下がりました。一方で運営側には機材準備や接続トラブルへの対応など新しい負担が生じ、私自身も毎回緊張しながら

準備にあたりました。しかし、こうした変化に対応しながら運営する経験は、組織の柔軟性を高める貴重な機会でもあったと感じています。

理事会では、志を持ち県内の作業療法を良くしたいと願う先生方とともに議論する時間が多くありました。限られた時間の中でも、互いの経験を持ち寄り、より良い制度や運営のあり方について真剣に意見を交わす場は刺激に満ちており、私にとっては非常に楽しく、充実した経験となりました。この出会いと協働は、理事として活動した中で得た大きな財産の一つです。

現在、協会や士会では組織離れが課題として挙げられています。会費の負担や制度の複雑さなど理由は理解できますが、作業療法士という資格が社会から必要とされ続けるためには、私たち一人ひとりが継続的に学び、一定の質を保つことが不可欠です。生涯教育制度はその基盤であり、学術団体としての活動は社会への責任を果たすうえでも重要な役割を担っています。

理事としての役割は一区切りとなりましたが、今後も一臨床家として地域の作業療法に貢献していきたいと考えています。会員の皆様がこれからも研鑽を重ね、福井県作業療法士会がより活気ある組織として発展していくことを心より願っています。

福井県作業療法士会 功労賞授与のご報告

作業療法の道標

～中山先生の歩みから未来へつなぐ～

一般社団法人福井県作業療法士会 会長 田嶋神智

この度、長きに渡り当士会に対し多大なご貢献をされました中山幸保先生に、功労賞を授与させて頂きました。県士会を代表し、心より感謝と敬意を表します。

中山先生の作業療法士としての歩みは、実に40年以上の長きに渡ります。その道のりは、福井県の作業療法士会の歴史そのものであり、今日の私たちの活動の礎は、ひとえに中山先生の献身的なご尽力の上に成り立っていると言っても過言ではありません。

先生はハンドセラピィの第一人者であり、これまでに捧げられてきた情熱は、今も私たちの原動力となっています。患者様の手指の機能改善のみならず、生活に深く寄り添う臨床家としての卓越した姿勢と、時には指導者としての温かい眼差し。その両面に

いて、先生は私たち後進にとって、まさしく、「作業療法の道標」であり続けています。先生が築かれた確かな功績と、残された精神を受け継ぎ、当士会は、次の世代へと弛まぬ歩みを続けていきます。

結びに、先生の今後の益々のご活躍とご健勝を心よりご祈念申し上げます。



田嶋会長

中山先生

中山先生からのメッセージ

医療法人博俊会 春江病院
中山 幸保 先生

この度は功労賞をいただき誠にありがとうございました。

1983年に金沢から福井への転勤を機会に県士会に入会しました。その頃の県士会の会員数は10名前後で先輩方はほとんどが親世代で、私は最も若年でした。石川県士会では会員の交流や学術活動も活発であったので、福井県士会でも同様と思ひ、色々な企画提案や運営をした記憶があります。県士会員歴40年余りの期間に会員各位に協力いただき副会長、県学会会長、北陸学会会長、表彰委員会、監事などを担当しました。

現在の県士会は会員数も多く組織力も強固なものになりました。今後は少子高齢化、さらには人口減少と地域格差、AIやロボットなどのデジタル社会などへの対応が問われる時代になると思われます。

県士会のさらなる発展と活躍を期待し、微力ですが一会員として努力したいと思います。

FRESHERS2025

新しい仲間を紹介します！

- ①出身校
- ②勤務先
- ③作業療法士を目指したきっかけ・理由は何か？
- ④好きな作業とその理由は何か？



ひさなが ちなつ
久永 千夏

- ①福井医療大学
- ②一般財団法人新田塚医療福祉センター
福井総合病院

- ③高校生の時の施設実習で作業療法士を知ったから。
- ④おいしいものを食べること：ご飯を食べると幸せを感じるから。



なかがわ ともか
中川 朋科

- ①福井医療大学
- ②リハビリスタジオ なるざの森
- ③身体面に加えて精神面の支援もできる点にやりがいを感じたため。

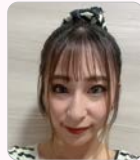
- ④色々な人の話を聞く：新しい考え方や価値観を知れるから。



うしさき のあ
漆崎 乃愛

- ①福井医療大学
- ②医療法人健康会 嶋田病院
- ③高校時代に怪我をしてリハビリをするときがあったため。

- ④食べること：食べることが好きだから。



はまの もえみ
濱野 萌

- ①福井医療大学
- ②医療法人健康会 嶋田病院
- ③知人に作業療法士がおり、勧められたため。

- ④食べること：美味しいものを食べると幸せになれるため。

第25回
東海北陸作業療法学会
・第13回 福井県作業療法学会 **in 福井**

テーマ **作業療法士 今こそ覚醒する**

会期 **2026/10/10(土)・11(日)**

会場 **AOSSA**

学会長 **釣部 雄史**

学会HP ▼



演題登録期間

2026/3/10～5/10



福井県作業療法士会

Instagram

登録・ご活用下さい



登録方法について

- ① Instagram の無料アプリをダウンロード。
▶ iPhone の場合は、「App Store」から
▶ android の場合は、「Google Play」からインストール。
- ② インストール後、「新しいアカウントを作成」して下さい。

フォローはこちら

新人さんからベテランの方、
たくさんのフォローを
お待ちしております！



@FUKU.OT



一般社団法人 **福井県作業療法士会**

<https://www.fuku-fuku-ot.jp/>

〒910-0101 福井市つくし野2丁目107番地

TEL: (0776) 55-7001 FAX: (0776) 55-7002